瑞 議 発 第 ２ ２ ３ 号
平成３１年１月２９日

瑞穂町長　杉浦　裕之　様

瑞穂町議会議長　　小山　典男

厚生文教委員会
委員長　村山　正利

「平成３０年度みずほまちなか会議」実施に伴う提言

日頃、議会の活動及び運営に対し、ご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、厚生文教委員会では、昨年１０月７日、「みずほまちなか会議」を開催いたしました。本年度のテーマは、「健康で楽しく安心できる高齢社会へ」と題して、住民の方々とグループ討議や意見交換を行いました。その後、まちなか会議で頂いた意見等を踏まえ、当委員会にて協議を重ねて参りました。

今回は、高齢者が生活していく上での「健康」「生きがい」「安心」を視点に意見交換を行いました。中でも出かけるための移動交通手段に問題があるとの意見が多くありました。また、見守りの活動に対する要望やコミュニティセンターの設備の改善を求める意見もありました。年々増加している独居高齢者の対策をするべきだという意見もありました。

協議の結果、厚生文教委員会として、別紙のとおり提言します。

なお、参加された住民から出された意見等の抜粋を添付いたします。

提　言　書

瑞穂町の高齢者人口も年々増加し、平成３７年（２０２５年）には、高齢化率が３０パーセントを超えると予想されています。こうした中で、高齢者が健康で生きがいをもって、安心して暮らせることは喫緊の課題となっています。

今回の会議には、高齢者として現在も仕事をされている方や老人会（瑞寿連）の役員の方、高齢者を支える民生委員や健康づくり推進委員などの方々が参加され、貴重なご意見が多く寄せられました。

当委員会では、これらの意見を精査し協議を重ねた結果、以下のとおり提言します。

一、　高齢者の居場所づくりの拡充に努められたい。

一、　高齢者の移動交通手段の確保に努められたい。

一、　長岡・元狭山コミュニティセンター調理室の機能性、安全性の確保について検討されたい。

一、　高齢者の居住の安定確保に向けた施策の推進を図られたい。

参加者の主な意見

○一人暮らしの高齢者は、健康診断に行きたがらない。
○高齢者医療・介護など、もし倒れたらどうすれば良いのか、手続きが分からない。
○敬老の祝金は対象となった年齢から、毎年支給して欲しい。
○食品なども宅配はあるが、自分の目でみて買い物をしたい。外出機会があることで、健康にもつながる。
○病院・買い物に行きたいけれども行けない。誘い合わせの車同乗も、運転手が高齢になり出来なくなってしまった。
○公共交通のシルバーパス制度があっても、バスが通っていない。
○ご近所付き合いが疎遠となる傾向がある。
○サロンに行くのに、移動手段が無い。「シルバーまちかど」など、地区以外からは来にくい。
○民生委員の役割が理解されていない。
○若い世代が住みたいと思える魅力が町に無い。
○役場職員の家庭は町内会に入るように勧めてほしい。
○福祉バスを見直してほしい。
○デマンドタクシーにしたほうが良いのでは。
○福祉バスなど交通問題は７０歳以上の人にアンケートをとるべきである。
○免許を自主返納し仮証明書をもらう場合、費用が２千円程度かかると聞いたが、町で負担しても良いのではないか。
○免許の返納時に、東京都等のさまざまな特典も受けられる身分証明書の発行費用（写真代 900 円、手数料 1,100 円）の補助を町で出して欲しい。（ほかに郵送の場合には別途 500 円かかるようだが）
○独居高齢者の孤独死が数件発生している。
○家の近くに買い物ができるお店がない。
○後期高齢者の医療費は、収入に応じて町が負担（補助）してほしい。
○敬老の祝金をもっと充実して欲しい。
○長岡・元狭山コミュニティセンターの調理実習室の水回りを良くして欲しい。